



# 東京多摩プロバスニュース

第 34 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 編集委員会 2011.1.12  
■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 知恵と経験を生かし、地域社会に発信しよう

### 第 77 回 定例会

日 時 : 平成 22 年 11 月 10 日(水)午後 1 時 30 分より  
場 所 : 関戸公民館第 1 学習室  
お客様 : 多摩市前市長 渡辺幸子様  
出席者 : 25 名(会員数 36 名)

### 第 78 回 定例会

日 時 : 平成 22 年 12 月 1 日(水)午後 1 時 30 分より  
場 所 : つむぎ館第 1 会議室  
お客様 : 多摩ミツバチプロジェクト 大木貞嗣様  
出席者 : 28 名(会員数 36 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

### 新年を迎えて

副会長 大澤 亘



明けましておめでとうございます。平成 23 年の正月を迎え、わが東京多摩プロバスクラブは創設以来 7 年目の半ばを経過したことになります。国内外の政治経済を見るとお世辞にも明るい展望が期待できるとは言いにくい情勢ですが、わたくし達が住むこの地域社会だけでも明るく楽しい新年でありたいものです。

今年度上半期を振り返ると、7 月のスタート直後から 9 月の「プロバスフェア 2010」の準備に忙殺されました。フェアの目的や実施状況はすでに前号のプロバスニュースで蓮池守一実行委員長が詳しく報告されたとおりですが、全会員がその知識や経験を生かして準備に力を合わせ、会期中何一つトラブルや事故もなく円滑にフェアを運営したことは何よりも特筆したいのは、女性会員のみなさんが、江戸しぐさの講演、貝合わせの絵図書きと遊びの指導、お点前のサービス、大正琴の演奏などそれぞれの分野で得意のわざを披露してイベント会場を大いに盛り上げフェアをリードしたことでした。

まさに「知恵と経験を生かし、地域社会に発信」したことになりました。

また、このフェアにはお隣の東京八王子プロバスクラブから大勢の役員のかたがたにお出でいただいたことは、他団体との一層の交流を目指すわがクラブにとって大変喜ばしいことありました。

今後は、すでに具体的に取り組んでいる環境問題はじめ、これまで 6 年間会員の皆さんが築いてきた実績の上に少しでも新しい何かを加え、わがプロバスクラブがこの地域の中で着実に前進していくよう努力したいと思います。



新春を寿ぐ富士とピラカンサ(多摩市鶴牧第二公園)

**松永 弘会員が昨秋の叙勲で「瑞宝双光章」受賞**

昨年11月3日「文化の日」に松永弘会員が「瑞宝双光章」を受賞されました。松永会員の長年の外交領事事務における功績に贈られたものです。外務省でパキスタン、ベトナムなど海外勤務は23年間に及んでいます。

11月9日(火)午前外務省で叙勲の伝達が行われ、同日午後、皇居宮殿「春秋の間」において天皇陛下の拝謁が行われました。

(西村政晃会員記)

**1.幹事報告****神谷真一幹事**

- 1) 11月度定例会(11月10日) 去る10月17日、東京八王子プロバスクラブ創立15周年記念式典に、鴻池会長、大澤副会長、神谷幹事、平田広報委員長、滝川益男会員の5名が参加しました。
- 2) 12月度定例会(12月1日) ①全日本プロバス協議会より総会の内容および東京八王子プロバスクラブ・横浜プロバスクラブより会報が届いています。②1月12日の定例会に発表する次期理事推薦委員を各委員会より1名選んで、12月22日の理事会で報告願います。

**2.委員会報告****2.1 総務委員会****西村政晃委員長**

- 1) 11月度定例会(11月10日) 出席:25名 欠席:11名  
講話:前多摩市長渡辺幸子様に「多摩市が目指した街づくり～そしてこれから～」と題して任期中の市政の主要な点についてお話を頂きました。(詳細P3)
- 2) 12月度定例会(12月1日) 出席:26名 欠席:10名  
講話:「多摩ミツバチプロジェクト」会員大木貞嗣様に「多摩における養蜂の実践」のお話を頂きました。(詳細P4)

**2.2 研修・親睦委員会****関根正敏委員長**

- 1) 11月7日(水)「晩秋の里山を歩こう」と題し第2回のウォーキングを小山田緑地にて実施。参加者14名。
- 2) 12月1日(水)定例会の後、赤坂飯店聖蹟桜ヶ丘店にて総務委員会との共催で忘年会を開催。参加者33名(うち家族3名)。ビンゴゲームで盛り上がった。



忘年会終了後、全員で

**2.3 地域奉仕委員会****滝川道子委員長**

小学校の統廃合にそって南豊ヶ丘小学校の「そろばん教室」が(例年ですと3月に行われるところ)12月中に取り組まれることになりました。古澤会員を先生として、大澤副会長、神谷幹事がお手伝い下さいます。3月にはまた、数校入って参りますので会員の皆様よろしくお願いします。

**2.4 広報委員会****平田哲郎委員長**

東京多摩プロバスニュース第34号の編集準備を進めるとともにホームページを更新しました。

**3.環境問題プロジェクト****稻田興リーダー**

“炭酸ガス排出量は着実に削減されている！”

今年4月を起点として、会員有志の各家庭から排出される炭酸ガス量を定量的に把握し、エネルギーの効率的利用を勧め、エコ生活を確立する運動を進めてきました。春夏秋冬をそれぞれ代表する4・7・10・1月のデーターを集計することとし、今までに三回の実績データーを集めてます。

今回10月度の調査結果を下表の通りまとめました。

調査月	対象数 (人)	平均値 (kg/日・人)	最少 (kg/日・人)	最大 (kg/日・人)	最大/最少(倍)
4月	21	6.6	3.1	14.5	4.7
7月	21	5.2	1.9	9.9	5.2
10月	22	4.6	2.0	10.4	5.2

この表で、全体の平均値を4月(春)対10月(秋)で比較すると、6.6対4.6と三割も減少していることが分かります。併せて最も最大も大幅に減っています。これは炭酸ガス排出量を数字で把握することでエコ生活に目覚め、日常生活にいろいろなアイディアを盛り込んで生活を始めた結果であると思われます。しかしながらまだ問題点があります。この表の最大/最少欄に示す如く、エネルギーを効率良く使われる方と無駄の多い使い方をする人との間に5倍もの開きがあることです。これは当然生活費にも大きく影響を及ぼしているはずです。

すべての方が4月より減少したわけではありません。増加した方は22名中3名おりますが、この3名の方は車で遠出をして多量のガソリンを消費したため、ベースとなる電気やガスは全員大幅な改善がなされております。

炭酸ガス排出量の少ないベスト3の方々は、皆、車を運転せず、しかも電気の利用効率が高いのが特徴です。また、4月実績から排出量を半減させた方は、電気器具やガス器具を省エネタイプに切り替えるエコ投資を行った結果実現させていますが、7月以降も元に戻ることなく高いレベルを維持しています。

エネルギー使用量の中で炭酸ガス排出量の多いのは電気とガソリンで、合わせて77%を占めることから、今後ともこれらの効率的利用方法を追及していく生活を共に考えていくたいと思います。

## 「ふりかえって」 前多摩市長 渡辺幸子様

平成 22 年 11 月 10 日第 77 回定例会において、多摩市長を 8 年間務められこの 4 月に退任された渡辺幸子様に標題の講話をしていただきました。「多摩市が目指したまちづくり～そしてこれから～」と題する丁寧なレジュメを用意されて、市長時代におやりになったポイントをデータをもとに説明されました。渡辺様のお話とその後の会員との懇談の要旨を掲載します。

総務委員会

### ＜はじめに＞(司会)

渡辺さんは市長時代に当プロバスクラブの定例会へ 5 回おいでいただき、市政について講話をしていただいています。今回は 4 月に退任されたばかりでホッとされているご様子で、市長として負託されたことは果たしたと思うと、静かに話し始められました。多摩市の現状については「たま広報」10 月 20 日号に掲載されていますとのお話。同号には渡辺さんの任期最後の平成 21 年度の決算が載っています。一度お読みになることをお勧めします。

### ＜多摩市が目指してきた街づくり＞

渡辺さんのお話の中で、主だったポイントについて紹介します。

①暮らしやすさの充実と将来の市民生活についても責任をもった行財政運営

- ・日経グローカルによると行政改革(総合評価)は多摩市は平成 14 年に 750 市区中 118 位だったものが平成 20 年に 7 位と大きく躍進しています。
- ・借金は減少 市の借金はこの 10 年間およそ 100 億円減少、今後も減少していく見込みです。

②自立的な都市経営

・「住み、働き、学び、憩う都市へ」をめざして学校と企業の誘致や仕事をつくる起業支援が進められてきました。リタイアする人も増えており、星間人口は昭和 60 年度 0.73 から平成 17 年度 0.94 と増え、将来 1.00 を目指しています。

③新しい公共——新たな支えあいのしくみを広げる  
“市役所は小さく、民間を活用してサービスは多様に”と、職員数を減らし、地域サービスは豊かにして行くということが推進されました。現在、多摩市は人口千人あたり職員数は全国平均、東京平均より下まわっています。多摩市の職員給与は全国トップと、話題になりましたが、市民一人当たりの職員給与は全国平均、東京平均より低く、行政サービスの生産性は高まっています(グラフで説明されました)。

- ・「市民参加」から一人ひとりの知恵と経験を役に立てる「市民協働」を推進をしています。
- ・信頼のネットワークの実例として防犯ネットワークにより、不審者情報は平成 17 年 132 件から平成 20 年 55 件と半減しています。

④福祉、子育て、  
教育はこれから  
も充実  
・保育所の充実、  
子育て、総合セ  
ンター「たまっ  
こ」の活動充実、  
図書館司書の全  
校配置など充実が  
はかられています。

・人生百歳時代を健康で豊かに暮らす  
多摩市には健康な高齢者が多い。市では「認知症サポーター」養成に尽力しています。その一環で、当クラブでも市の助力により 10 月度定例会で「認知症サポートー養成講座」を受講したことが記憶に新しいところです。

⑤社会基盤施設の建設から維持管理の時代へ  
多摩市では東京ドーム 8 個分の施設を有していますが、これからは計画的な維持補修が大事です。小中学校も 37 校→29 校(現在)→24 校(近い将来)と、統合が進められています。

### ＜会員との懇談＞

渡辺さんの丁寧なお話が終わったところで、会員との懇談に移り、以下のような活発な発言がありました。

- ・「渡辺さんは新たな多摩をつくる任務に尽力されました。情熱、指導力が大変すぐれておいででした」
- ・「誇れる多摩と思います。渡辺さんのすばらしい業績に敬意を表します」
- ・「市民がやる・・・とてもよいことだと思います。多摩では健康な高齢者が多い。介護保険の使用が都内で一番少ないです。自分たちで地域をどう良くしていくかが大事だと思います」
- ・「広域合併が課題になった時、多摩市ではその方向に進みませんでした。とても良い判断だったと思います」

その他たくさんの意見、感想が述べされました。

渡辺さんのお話と率直な懇談の最後に、渡辺さんへの感謝と 8 年間のご苦労をねぎらう盛大な拍手で締めくくられました。

(文責 西村政晃)



講話中の渡辺前市長

## 多摩における養蜂の実践

12月定例会に「多摩ミツバチプロジェクト」会員の大木貞嗣様をお招きして、多摩における養蜂の実践について話を聞いていただきました。

同プロジェクトは発足から3年が経過する

団体で、市内にある美術館の屋上や農地に巣箱を設置して養蜂活動を行っています。今年は4月から8月までの最盛期に約65キログラムの蜂蜜を探り、それ以降はミツバチの越冬食とするため採蜜はしなかったとのこと、ミツバチは古来より人間との関係が深く親しみのある昆虫ですが、時には作業中に刺したり、秋にはスズメバチも多数飛来するので段階の注意が必要のようです。

また巣箱内の女王蜂・雄峰・働き蜂の生態をはじめ、巣づくりの様子や蜂蜜の採取、農薬散布による環境汚染などについてもプロジェクトの映像で講義され、実践者ならではの臨場感ある話を伺うことができました。



「多摩ミツバチプロジェクト」会員のみなさん

## 上田清会員



講話中の大木貞嗣様

特に关心のあった環境問題については、ミツバチが大量に失踪するなどの異変が世界中で起きていること、日本の農薬使用量がスウェーデンの10倍・アメリカの7倍にも達していることなどから講演会で啓発活動をしたり、生物の多様性に十分配慮した養蜂活動をしているとの話が印象的でした。



作業中のプロジェクト会員のみなさん

多摩地域は大規模なニュータウン開発で多くの自然が喪失したことによって環境問題に対する市民の関心は高く、ホタルの飼育や緑化の推進、街路樹の剪定木を利用した炭焼き、粗大ごみのリサイクル化、花いっぱい運動などさまざまな市民活動が見られますが、企業や行政のリーダーシップのもとにエコ生活の促進や温暖化対策など、より一層広範な活動が期待されるところです。

現在、わがプロバスクラブでも「環境問題プロジェクト」を立ち上げて取り組むべき事業の検討を重ねていますが、これを契機として積極的な保全活動を展開していくことができればと思っています。

豊かな自然の象徴ともいえるミツバチとの係わりを通して、大変貴重な話を聞いていただいた大木様をはじめ、同プロジェクトの皆様に感謝申し上げます。

## ◇◇◇ ハッピー・バースディ ◇◇◇

### 「11&12月の誕生日祝」

年の終りの2ヶ月間に誕生日を迎えた会員は下記の4名(内1名は休会中)の方々でした。3名の方々からコメントをいただきましたので紹介します。

・蓮池守一会員(11月5日)

馬齢を重ねること78回が、“初富士やいまだ超えざる峯ありて”と気持ちだけは新たにしております。

・村上伸茲会員(11月7日)

愛犬と共に老い三昧の毎日でしたが、近年の政治・経済は高齢者を必要としているのでしょうか?

・吉岡喜久恵会員(11月10日)

60～?回の誕生日を迎え、嬉しくもあり、またこの先

### 永田宗義会員

の生き方を想うこの頃です。

・松永弘会員(12月1日)

現在、休会中です。



誕生日を迎えた左から村上・吉岡・蓮池会員のみなさん

## ◇◇◇ 歴史散策 ◇◇◇

### 武藏国分寺跡ウォーキング

10月20日(水)、「武藏国分寺跡とハケ散策」と題して研修・親睦委員会主催の今年度第1回のウォーキングを開催。参加者11名。あいにくの小雨の中、西国分寺駅を徒歩で出発。途中旧鎌倉街道切り通しを抜けて中門跡・金堂基壇跡・尼坊跡などが残る国分尼寺跡へ。武藏国分寺跡は現在発掘調査中であったが、近くにある武藏国分寺跡資料館で館員の丁寧な説明を受け、創建当時の天平時代に思いを馳せた。



武藏国分寺跡資料館内で説明を聞く



武藏国分寺跡の前で参加メンバーのみなさん

現国分寺内の万葉植物園を見学の後、お鷹の道を辿り真姿の池へ。ここは国分寺崖線(ハケ)からの湧水池のひとつで池の中央に祭られている弁財天に全員でお参り。近くの農家の軒先で売られていた柿を買って民家の間を抜けて、さらに国分寺駅近くの殿ヶ谷戸庭園へ向かい、庭園内を一巡り。ちょうど秋の七草が咲いていました。この庭園はハケの湧水を取り入れた回遊式林泉庭園で、本当は紅葉の頃が素晴らしいけれど、残念ながら今回は少々季節が早すぎたようでした。国分寺駅からバスで府中駅に出て電車で聖蹟桜ヶ丘駅へ。天気も何とか持ち有益な一日でした。

## ◇◇◇ 里山ウォーキング ◇◇◇

### 小山田緑地ウォーキングの一日

### 増山敏夫会員

11月17日、肌寒い日和ながら多摩プロバスの元気印14名は、10時半予定通り唐木田駅に集合。小山田緑地を目指し元気にスタートした。市街地を抜け東京国際ゴルフコースの中を通り抜ける尾根緑道に入る。プレー中のゴルファーも寒そう。ティーグランドの脇を通り抜けるので、ティーアップ中のプレーヤーはやや緊張気味、はたせるかな右に大スライス・・・可哀そうに。ゴルフ場を後にして、樹木に覆われた緑道の小山田緑地に入る。寒さとシーズン外れのせいか人っ子一人逢わない。里山



トンボ池にて

の情緒が残るトンボ池で記念写真。谷戸の田園風景を残すアザ池周辺を回り、ひっそりとして、こんな所にと思える吊橋を渡る

と、本園の小山田

緑地ビジターセンター。見学後、小雨のぱらつく中を昼食の場所を求めて本園見晴らし広場へ向かうが、眺望利かず。だが周辺の多摩丘陵がシルエットで浮かぶ近景だ

けの眺望もまた悪くない。我々の住む多摩がこんな距離感のところと実感できた。広場を下り、運動公園の東屋で昼食。小さな溜池が点在する静寂な小山田の谷を抜け、本日のコース・小山田緑地が最後で、1時半。



小山田緑地の道標にて参加メンバーのみなさん

バス停からバスに乗る予定だったが、1時間に一本のバスタイムには時間が悪く、尾根幹線道路まで緩い登り道を歩くことにした。鶴牧地区にお住まいの方々が多く、尾根幹線に出たところで解散して、3時。皆さんなかなかの健脚ぶりでした。さらに多摩センター駅まで歩いた約半数が、駅下の居酒屋で気持ちの良い一杯をやって打ち上げた。数人がさらに桜ヶ丘方面まで徒步の脚を延ばした。里山の自然を残したわが多摩は、ウォーキングコースが豊富です。お疲れさまでした。



## プロバスカナダ・ランデブー2011

開催期間：2011年9月13-15日

開催地：カナダ・バンクーバー市

会場：シェラトンホテル・バンクーバー

「世界のプロビアンの皆さん、2011年プロバス・ランデブーへようこそ！各地のプロビアンたちとの交歓、豊かなプレゼンテーション、美味しい料理、リーズナブルな高級宿舎、国際都市バンクーバーでの楽しい休日を、心ゆくまでお楽しみください」 ——組織委員長E・マルゾット

### プログラム

#### 9月13日(火)

13:00 - 受付

14:00 - 会長挨拶

18:00 - レセプション



グラウスマウンテン

#### 9月14日(水)

09:00 - 10:00 講話 C・ヘリン

「福祉経済のワナ」

10:00 - 10:30 コーヒーブレーク

10:30 - 11:00 講話 F・パーマー(題名後日通知)

12:00 - 昼食会(参加自由)

18:00 - 晩餐会(ゲスト・スピーカー後日通知)

#### 9月15日(木)

09:00 - 10:00 講話 M・シネイダー「老化する脳」

10:00 - 10:30 コーヒーブレーク

10:30 - 11:30 集会(後日通知)

12:00 - 閉会昼食会(参加自由)

### スピーカー紹介



○「老化する脳」と題して講演するマックス・シネイダー博士は、ブリティッシュコロンビア大学の眼科学教授。博士はこれまでバンクーバーの各プロバスクラブで何度か講演しており、そのユーモある実用的な情報と最新鋭の科学知識で聴衆を引きつけてきた。バンクーバー港湾健康研究所の脳研究部長を務め、多数の大学の名誉称号の保持者である。



○「福祉経済のワナ」と題して語るカル・ビン・ヘリン氏は「自己信頼」の提唱者として知られる人道主義者。国際的な思想家で全地球的な貧困の撲滅・児童の生命

と夢の実現を主張している。同氏の主張は、アメリカ建国の父トマス・ジェファソンの独立精神や、マーチン・ルーサー・キング牧師の「アイ・ハブ・ア・ドリーム」演説を思わせるものがある。

○フランク・パーマー氏(演題未定)はカナダ有数の宣伝企業「DDB カナダ」のCEO。バンクーバーの零細企業から身を起こし、カナダで最も創造的な広告・マーケティング会社の会長・経営者となった。企業の社会的責任を重視する博愛主義者。



### 観光(要所紹介)

○バンクーバー画廊(ロバート・アダムス、ケリー・J・マーシャル、その他)○カピラーノ吊り橋○ガスタウン(バンクーバー発祥の地)○グラウスマウンテン○湾内クルージング○スタンレー公園○ロブソン通り(ショッピング)○バンクーバー博物館○バンデューセン植物園。

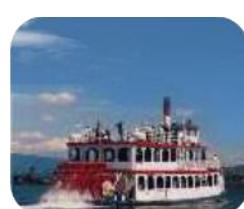
### <カナダのプロバスについて>

「ワールド・プロバス」(世界プロバスセンター)のウェブページは、「カナダ・プロバスセンター」が管理している。またこの「カナダ・プロバスセンター」は、オーストラリアとニュージーランドを中心とする「南太平洋プロバスセンター」と並んで、世界の二大拠点である。1987年に初のプロバスである「ケンブリッジ PC」が発足して以来、いまではカナダ全土で159のクラブが登録しており、その総会員数は19,500人に達している。

「カナダプロバスセンター」は、「自己満足に陥りやすく自己中心的になりがちな年代にあって、思考力を刺激し関心を高める活動への参加を」と呼びかけ、各地のプロバスクラブが活発な活動を展開している。活動の中心をなすのが、定例会の充実した卓話。今回のランデブーでも、各地の優れた卓話者の中から国際的に著名な上記3人を選び、スピーカーとして登場させている。

さらに目を引くのが大都市にある各クラブの会員数。今年度のランデブー開催地バンクーバー周辺のPCを見ても、「バンクーバーPC」376人、「バンクーバー女性PC」300人、「ノースショア・バンクーバーPC」が329人と、日本では考えられない会員数の多さである。

(滝川益男会員 訳・記)



湾内クルージング



ロブソン通り

**◆1. 永田宗義会員の写真展**

写真を始めて8年目。永田会員は『彩り空間の美を求めて』をモットーにウォーキング中にカメラを携えて風景や花を撮影し、ときには四季折々のシャッター・スポットを求めて旅をし、市内の喫茶店「白樺」で毎年個展を開きその成果を発表しています。10月26日～11月6日に5回目の写真展を開催、115名の同好の市民や当クラブ会員が訪れました。（登坂記）



永田会員を中心とし平田哲郎・稻田興両会員と共に、「白樺」にて

**◆2. 趣味の油彩画**

鴻池敬和会長

10数年前「府中の多摩美術アカデミー」で江田豊先生の油彩画の手ほどきを受け、それを趣味として続けています。多摩市の「原生会」に属し、先輩の岡野一馬会員もおられ、いろいろ啓発され、かつご指導を頂いています。原生会は春秋に市内外で展示会を開き、今春は52回目の展示会を開催。10月26・27日には、芸術に力を注いでいる北杜市での写生会に参加し、甲斐駒ヶ岳や八ヶ岳に囲まれた自然の写生を楽しんで来ました。



甲斐駒ヶ岳からの渓谷

**◆1. 旅のデザインサークル**

「真田六文銭を訪ねるツアー」——を平田哲郎リーダー・稻田興サブリーダーの綿密な企画のもと、稻田サブリーダーがまとめた『真田十文銭を探しに』の資料を片手に、11月18・19日大澤亘・岡野一馬両会員・筆者の5名が参加し、リーダーの車に同乗して下記の各地を探訪。

○第1日；戦国時代に活躍した真田一族の発祥の地真田町の真田氏歴史館、関ヶ原の戦いに中山道を進軍した徳川方大援軍を足止めして活躍した真田昌幸・信繁（幸村）父子の上田城跡、松代では真田家の家名を後世に引き継いだ松代初代藩主真田信之の松代城跡・真田邸などを探訪。この他、松代大本營跡、象山神社を訪れた。行く先々に今なお六文銭の旗がはためき印象的であった。

宿泊はリーダーの計らいで、松代ロイヤルホテルに宿泊。当日は奇しくもボジョレヌーボーの初日、ラブレ・ロワで乾杯し、楽しく巡った1日を肴に地酒の新走を酌み交わした。

○第2日；真田家の菩提寺長国寺を始め、川中島古戦場、飯綱高原を経てリーダーのシャッタースポットの鏡池では間近に迫る峠々たる戸隠連峰に圧倒される。戸隠奥社やそそりたつ杉並木には、この人里離れた地にもたらした古人の信仰の力に畏敬の念を覚える。ここからさらに信濃町の一茶記念

登坂征一郎会員



上田城跡公園



真田家菩提寺の長国寺



鏡池と戸隠連峰



姨捨の棚田

館、田毎の月で有名な姨捨の棚田などを巡る。

二日間の大半をリーダーがハンドルを握り、時折サブリーダーが運転を代わる。帰着は20時、総走行距離は約700km、同乗者一同感謝・感激で一杯の旅でした。

出発時の降りみ降らずみの天候の心配はすぐに解消、道中、天候に恵まれ、信州の晩秋の鮮やかな深紅の紅葉・カラマツの黄葉の景色も旅の目を楽しませてくれた。

**◆2料理サークル**

北村克彦会員

延び延びになっていた料理サークルが、11月24日に行われた。場所はベルブ永山の調理室、参加者は大澤亘・神谷真一・鈴木達夫・滝川益男・滝川道子・登坂征一郎・西村政晃・増山敏夫会員各位と筆者の9名。講師は和食料理のベテランである木田昌宏先生。現場から離れて10年ほどになるのでかなり忘れてしまったとご諌諱のご挨拶のあと、いよいよ開始。

今日の料理は、①蓮根・だんご汁②かき、椎茸、長ネギのしげ焼き③出汁巻き玉子④和風サラダ・味噌ドレッシングである。まずは蓮根と里芋を洗って皮を剥き、蓮根をすりおろす。慣れないながらもなんとか手を切らずにできた。すりおろした蓮根に卵白、片栗粉、小麦粉をまぜてだんごにする。しげ焼きでは、カキを洗って片栗粉でまぶしフライパンで炒める。椎茸、長ネギも炒めて酒、しょうゆ、みりんを調合した汁で煮込む。出汁巻き玉子は、講師の木田先生でも修業時代に毎日練習したというほど難しい。焼き方となるとほとんど講師の手元を見るだけ、その内で登坂会員が挑戦する。和風サラダでは、味噌ドレッシングの作り方を覚えたのは収穫だった。



右から木田先生・神谷会員・筆者・登坂会員

出来上がった料理の試食に、ビールが欲しいところだが、この会場はアルコール厳禁。家に帰って飲むことにして解散。

## 映画「北の零年」

これは我が稻田家の先祖が関係した史実に基づいて製作された映画であり、明治維新の変転極まりない世の動きに翻弄された稻田家臣団の苦労物語である。



### 映画「北の零年」

DVDのカバー

住命令がほごになったことだけを告げて帰国してしまう。

置き去りにされた一同はそれでも英明の檄のもと開拓に夢を託すが、肝腎の作物はなかなか根付かない。苦況を開拓するため札幌へと向かった英明は消息を絶ってしまい、残された一同には過酷な運命が待ち受けていた……。

この映画は2005年1月に公開され、翌年の第29回アカデミー賞で吉永小百合が最優秀主演女優賞を受賞した行定勲監督の作品で、同じ題材で船山馨の「お登勢」(1969年)や池澤夏樹の「静かな大地」(2003年)という長編小説も書かれている。

## ◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛  
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて  
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と  
社会奉仕に力をそそぐ  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い  
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の  
教え導く糧となる  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

## 稻田興会員

ストーリー；明治4年(1871年)小松原志乃(吉永小百合)は稻田家の家臣一同と共に、先遣隊として北海道静内にいる夫・英明(渡辺謙)のもとへと向かった。

静内の地を開墾すれば稻田家の領地となるという政府の言葉を信じ、一同はみな一縷の希望をもち厳寒の苦しみに耐えようやく最初の冬を越えた頃、稻田家当主(殿)が到着するが、廃藩置県によって移

史実からひも解くと、この開拓移住は、庚午事変(こうごじへん、別名：稻田騒動)という明治3年(1870年)に徳島藩淡路洲本城下で蜂須賀家臣の武士団が、対立する徳島藩筆頭家老稻田邦植(くにたね、洲本城主、稻田家16代当主)の別邸や学問所などを襲った事件がきっかけで、結果、双方喧嘩両成敗の形で稻田家側は明治新政府により徳島藩淡路島から北海道静内へ移住を命じられたものである。

これら一連の歴史的意義を探ってみると、①もしこの庚午事変が勃発していなければ、淡路島は今でも徳島県所轄であったこと(現在は兵庫県所轄)。②日本法制史上、最後の切腹刑(蜂須賀側の10名)が執り行われたこと。③稻田家に与えられた土地は北海道静内郡と色丹島で、後に新冠郡が加増されたが、まず静内に移住した稻田家臣団総勢546名が北海道開拓の先鞭をつけたこと。④野生の馬を飼い馴らして農耕に供し、後に軍馬の供給拠点となり、更にはサラブレッドを輸入して、現在の競馬界の繁栄を支えてきたこと(現在静内や新冠のほとんどが馬の放牧地である)。等々面白い事実が発見できる。



稻田家屋敷跡  
の記念碑  
(新ひだか町静内)

最後に、我が稻田家の名誉のためにあえて注釈をつけるならば、この映画はあくまでもフィクションであり、実際には当主の稻田邦植(当時16歳)は家臣団と共に入植し、自ら鍬を持ち、開拓の指揮を執った史実が静内町郷土館所蔵の「移住回顧録」にも記録されており、今でも静内町の御殿山公園内にある稻基神社に手厚く祀られている。

## ◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

○ “私の一品”として提供された映画“北の零年”は私も先年、吉永小百合の魅力に惹かれて観た記憶がありますが、今回はからずも稻田会員のご先祖がこのシナリオに絡んでおられることを知られ、あわててDVDで見直した次第です。そこには幕末から維新にかけて没落を余儀なくされた武土階級—稻田家主従の悲哀と北海道への移封による開拓の辛酸が描かれており、改めて胸を打たれました。

○今号では、松永弘会員の“瑞宝双光章”的受賞、渡辺幸子前市長の8年間の市政改革の成果についての講話、大木貞嗣様の“養蜂の実践”的お話、さらに待望していた滝川益男会員の“世界のプロバス事情”的復活、また、活発なサークル活動の報告等盛り沢山な内容となりました。 (平田記)